

Collège de France

Philologie de la civilisation japonaise

Cours de l'année 2012-2013

Les poèmes japonais médiévaux sur les divinités

15 janvier 2013:

Les deux préfaces du *Kokin-shû*

古今和歌集

- 古今和歌集 *Kokin-waka-shû*, 905.
- 勅撰集 *chokusen-shû*
- 二十一代集 *nijûichi-dai-shû*
- 俳諧（俳句） haikai (haiku)
- 二十四史 *Vingt-quatre histoires dynastiques*
- 新続古今集 *Shin-shoku-kokin-shû*, 1439.
- 六国史 *Rokkokushi*
- 本朝通鑑 *Honchô-tsûgan*, 1670 (310 l.)
- 林羅山 Hayashi Razan (1583-1657)

- 大日本史 *Dai-Nihon-shi*, 1715 (397 l.)
- 徳川光圀 Tokugawa Mitsukuni (1629-1700)
- 詞書 *kotoba-gaki*
- 醍醐 Daigo 延喜 Engi
- 紀貫之 Ki no Tsurayuki (872?-945/883-946)
- 仮名序 *kana-jo*
- 紀淑望 Ki no Yoshimochi (m.819)
- 真名序 *mana-jo*
- 大学頭 *daigaku no kami*
- 大学寮 *daigaku-ryô*
- 土佐日記 *Tosa-nikki*

- ともゝゝ歌の様六つなり
- 唐の詩にもかくぞあるべき
- 和歌有六義
- 孔穎達 Kong Yingda / Ku Eitatsu (574-648)
- 風 *fû* 雅 *ga* 頌 *shô* ; 賦 *fu* 比 *hi* 興 *kyô*
- 風 > そへ歌
- 賦 > かぞへ歌
- 比 > なずらへ歌
- 興 > たゝこと歌
- 頌 > いはひ歌

- 和漢朗詠集 *Wakan rôei-shû*
- 藤原公任 *Fujiwara no Kintô* (966-1041)
- 「やまと歌は人の心を種として万の言の葉とぞ成れりける。」
- 「世中に在る人、事・業、繁きものなれば、心に思ふ事を、見るもの、聞くものに付けて、言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いずれか歌を詠まざりける。」
- 心、種、言の葉、言葉（詞）
- 選子内親王 *Senshi-naishinnô*

- 開經 *kaikyô* « sūtra d'introduction, d'ouverture »
- 無量義經 *Muryô-gi-kyô*
- かくばかり人の心にまかせける
 ほとけのたねをもとめけるかな
- 藤原良経 *Fujiwara no Yoshitsune* (1169-1206)
- 如是因
- 「種しあればほとけの身ともなりぬべし
 岩にも松は生ひける物を」
- 本歌取り *honka-dori*
- 「種しあれば岩にも松は生ひにけり
 恋をし恋ひば逢はざらめやも」

- 夫和歌者。託其根於心地。發其華於詞林者也。人之在世。不能無為。思慮易遷。哀樂相變。感生於志。詠形於言。是以逸者其聲樂。怨者其吟悲。可以述懷。可以發憤。
- それ和歌はその根を心地に託け、その華を詞林にひらくものなり。
- 人の世にある、無為なることあたはず。
- 思慮うつることたやすく、哀樂相変わる。
- 感は志になり、詠は言にあらはる。
- これをもちて、逸するひとはその声楽しく、怨ずるひとはそのうた悲し。
- もちておもひを述うべく、もちていきどほりをおこすべし。

- 「それ大和ことばといふはわが国のことわざとして盛んなるものなり。」
- 老若歌合せ *Rônyaku uta-awase*
- 実海 *Jikkai*
- 訳和々歌集 *Yakuwa-waka-shû*
- 「力をも入れずして、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をも哀れと思はせ、男女の仲をも和らげ、猛き武人の心をも慰むるは、歌なり。」
- 淮南子 *Huainanzi / Enanji*

- 動天地。感鬼神。化人倫。和夫婦。莫宜於和歌。
- テンチを動かし、キシンを感ぜしめ、人倫を化し、フウフをワすること、和歌より宜しきはなし。
- 詩経 *Shijing* / *Shikyô*
- この歌、天地(あめつち)の開闢(ひらけ)初まりける時より、出来にけり。しかあれども、世に伝はる事は、ひさかたの天にしては、下照姫に初まり、あらかねの地にしては、素盞烏尊よりぞ起こりける。
- *Shitateru-hime* ; *Susanoo* ; *Amewaka-miko* 天稚御子

- 夷歌 ebisu-uta ; 夷曲 hina-buri
- 文字の数も定まらず
- 歌の様にも有らぬ事
- ちはやぶる神世には、歌の文字も定まらず、素直にして、事の心分き難かりけらし。
- 人の世と成りて、素盞烏尊よりぞ、三十文字（みそもじ）あまり一文字は詠みける。
- 八雲立つ出雲八重垣妻籠めに
八重垣造るその八重垣を

- 若夫春鶯之囀花中。秋蟬之吟樹上。雖無曲折。各發歌謠。物皆有之。自然之理。然而神世七代。時質人淳。情欲無分。和歌未作。逮于素盞烏尊到出雲國。始有三十一字之詠。
- 若しそれ春の鶯の花の中にさへづり、秋の蟬の木の上にくたふは、曲折なしといへども、おのおの歌謠をいだす。もの皆これあるは、ジネンの理なり。しかれども、神の世ななよ、時すなほに、人あつくして、ジャウヨク分かるることなく、和歌いまさおこらず。S. の出雲の国に到るにおよびて、はじめて三十一文字のエイあり。